

私はスティックを右に倒し、右足を踏み機体を右に傾けた。

私は昨年春からグライダーを始めました。この歳になって空を飛べるとは思いませんでした。法改正が行われ（小泉さんのお蔭だとか？）近視でメガネをしていても飛行免許が取れることになったというのを聞いて、子供のころから夢だった空を飛ぶことを始めています。もう頭も体も硬くなっているので、習うというがっつらいですね、でも日常的でない体験なので気分転換にはとてもよさそうです。めっきりゴルフの回数も減り、日曜日にお酒を飲むこともなくなりました。でも家族からはたまに家族サービスをしたら、といやみを言われますが、、、でも、私の機嫌がいいらしくあまり文句も言いません。グライダーは私が数字（グライダーは軽飛行機より事故が少なく、軽飛行機は車より安全）をだして車より安全なんだぞと、丸め込んでいます。さて、ヒコーキというのは機体の操作がすぐには機体の挙動となって現れません。車のようにハンドルを切れば、曲がってくれるわけではなく、機体を傾けてればその傾きに合わせて旋回します。2段階なんですね。逆に言うと傾いていると傾いた側に旋回を始めます。バイクに似てますかね、それが三次元的な挙動となって現れます。挙動変化をつかむことができれば、すぐに飛ぶことができるでしょう。なかなか私にはできません、反応がちょっと遅いようです。一回の飛行は上昇気流がなければ10分くらいのことが多いのですが、降りてくると頭も体も疲れています。心地の良い疲れです。

さて、高度200m、これから旋回して飛行場を目指します。まず、一回目の旋回、ここはバンクをつけてしゃっきと90度旋回します。高度150m以上ある、ダイブブレーキをひいて、スピードは95kmだ。ゆっくりと最後の旋回へ、飛行場の中心に機体を合わせながら、スピードを確認して100km、ちょっと速い。風に流される、修正、飛行場からずれた、修正、また流される、うまくいかない。とあわててると、教官が「これが自然にできるまではだめだな、そんなにいろいろ動かしたって機体はゆうこときいてはくれないよ。じわっとね、じわっと。」なんか意味深いですね、、さうこうし

ているうちに機体は地上10mへ、ゆっくり、ゆっくりスティックを引いてきて、まだまだよいまだ！ぐいっと強めに引き付ける、と同時にザーと着陸。教官、一言「まだまだだな、あと50回くらいかな。」

ある日の午後の新篠津のグライダー滑空場での私の一日でした。念願の単独飛行がかなったなら、ご報告いたします。

